

DATA FILE



三斜晶系

名 前	TURQUOISE (ターコイズ) / トルコ石
化学組成	$\text{CuAl}_6(\text{PO}_4)_4(\text{OH})_8 \cdot 4\text{H}_2\text{O}$
色	青色、緑色
光 沢	ガラス光沢、脂肪光沢
蛍 光	なし
条 痕	白色、薄青色
劈 開	不明瞭
断 口	貝殻状
硬 度	5 ~ 6
比 重	2.6 ~ 2.8

トルコ石

TURQUOISE

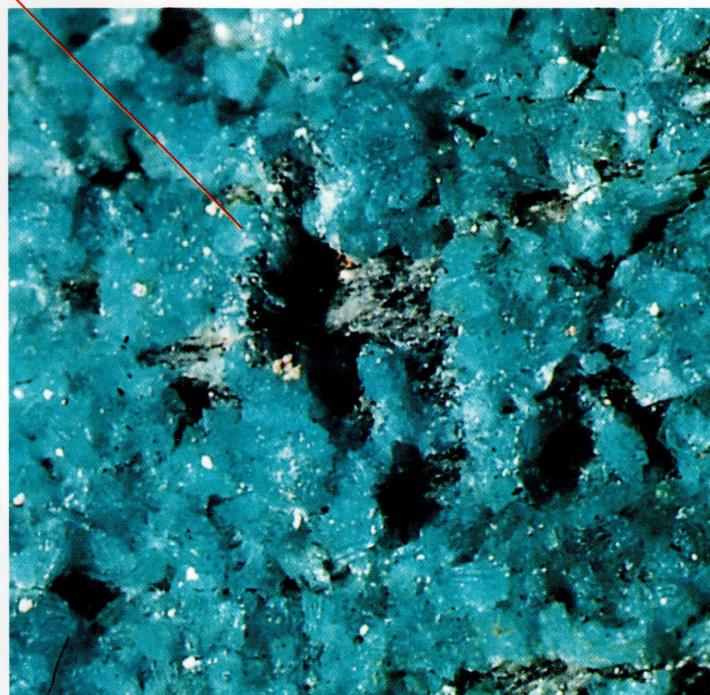
ト

結晶形ははっきりとわかるものは稀で、塊で産するものが多い。

微小結晶の集塊となったトルコ石。

石英、燐灰石、針鉄鉱、バリシア石などと共生する。

結晶は青色または緑色で、ガラス光沢や脂肪光沢を持つ。

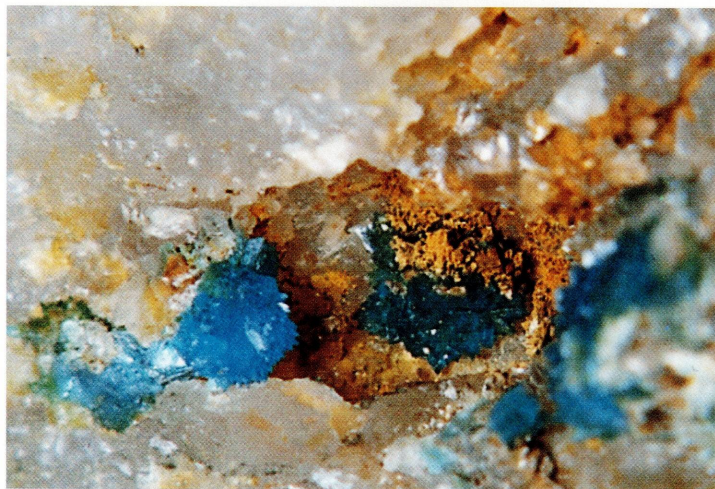


劈開は不明瞭で、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

素焼きの陶板にこすりつけると白色または薄青色の条痕が残る。

微小結晶の集塊で産出

主に銅やアルミニウムを含むリン酸塩の岩石が熱水変質を受けることで生成するトルコ石は、純粋なものは鮮やかな青色をしているが、副成分として鉄を含有するものは緑色であられる。肉眼で結晶の形を確認できるものは非常に珍しく、微小な結晶が集まって塊状や皮膜状になることが多い。鉱物名は、かつて中近東のシナイ半島で産出したこの鉱物がトルコを経由してヨーロッパに伝わったことから名づけられた。



▲石英にともなって産出したトルコ石。



◀表面を磨かれたトルコ石。



▶カボション・カットが施されたトルコ石。

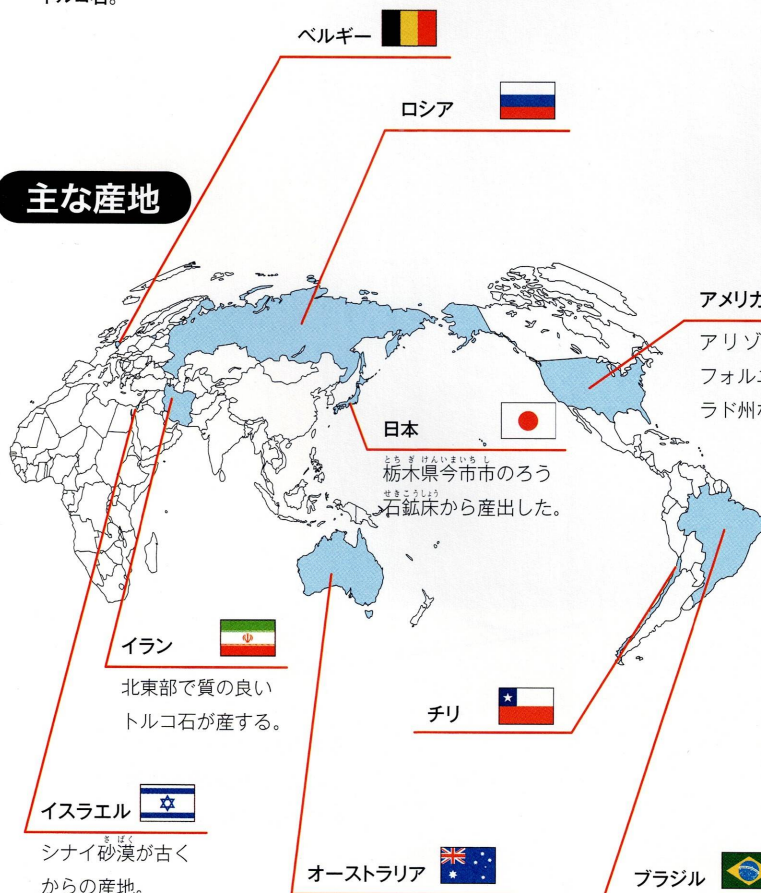
模造品も存在

トルコ石は古くから宝飾品や工芸品に利用され、古代エジプトの遺跡から発見されたほか、かつて中央アメリカのアステカ族が儀式の際のマスクとして崇めた石としても知られる。しかし、質の良いトルコ石は少ないため、現代ではエナメルやガラスでつくられたものや、玉髄や菱苦土石、バリシア石、ハウ石、石灰岩などの練合わせや着色による模造品も多く出回っている。特に1972年にフランスで開発された「ギルソン・ターコイズ」と呼ばれる人工トルコ石は、天然のトルコ石と非常によく似ているため鑑定が難しい。

変色しやすいトルコ石

中世のヨーロッパでは恋人同士でトルコ石を持ち、どちらかが心変わりすると黒くなると思われていた。しかし、実はトルコ石は多孔質であり、ホコリや油を吸収したり熱や光に長時間当たることによって簡単に変色してしまう。そのため、現在ではトルコ石にロウや樹脂を染みこませて変色を防ぐことが多い。

主な産地



◀16世紀のイタリアでつくられたトルコ石の宝飾品。

▼トルコ石が使われたアステカ族の工芸品。

